

午 後

平成 29 年度登録販売者試験問題

茨城県

(平成 29 年 9 月 7 日 午後)

分 野		出題数	試験時間
1	主な医薬品とその作用 (40 問)	60 問	120 分
2	医薬品の適正使用と安全対策 (20 問)		

◎ 指示があるまで開いてはいけません。

◎ 注意事項

- 「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」について、問題文中では「医薬品医療機器等法」と表記します。
- 試験問題は問 61 から問 120 までの 60 問で、解答はすべて答案用紙に記入してください。1 つの解答欄に複数解答した場合、その箇所は無効とします。
- 不正行為を行った者や他の受験者の迷惑となる行為を行った者は、試験を無効とし、または合格を取り消すことがあります。
- 答案用紙は折り曲げたり、汚したりしないでください。また、誤って記入した場合は、消し跡が残らないように消しゴムで完全に消し、消しくずをよく払ってください。
- 退場する時は、答案用紙を裏返して机の上に置き、係員の指示に従ってください。
- この問題用紙は持ち帰ることができます。

【 答案用紙への記入上の注意 】

- ①氏名を記入してください。
- ②マークは、HB より濃い鉛筆で、解答の数字の枠の中を塗りつぶしてください。
- ③マークを消す時は、消しゴムで完全に消し、消しくずはよく払ってください。

マークの仕方 良い例 悪い例



薄い 短い 細い はみでる

主な医薬品とその作用（40問）

【問61】 かぜ及びかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a かぜとは、主にウイルスが鼻や喉などに感染して起こる上気道の急性炎症の総称で、通常は数日～1週間程度で自然寛解し、予後は良好である。
- b かぜの約8割はウイルス（ライノウイルス、コロナウイルスなど）の感染が原因で、細菌の感染は原因とはならない。
- c かぜとよく似た症状が現れる疾患に、喘息、アレルギー性鼻炎、リウマチ熱、関節リウマチ、肺炎、肺結核、髄膜炎、急性肝炎、尿路感染症等がある。
- d かぜ薬は、ウイルスの増殖を抑えたり、ウイルスを体内から除去するものではなく、咳で眠れなかったり、発熱で体力を消耗しそうなときなどに、それら諸症状の緩和を図る対症療法薬である。

	a	b	c	d
1	正	誤	誤	誤
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	正

【問62】 次の表は、あるかぜ薬に含まれている成分の一覧である。

6錠中	
アセトアミノフェン	900 mg
d-クロルフェニラミンマレイン酸塩	3.5 mg
デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物	48 mg
d1-メチルエフェドリン塩酸塩	60 mg
無水カフェイン	75 mg
ヘスペリジン	60 mg
トラネキサム酸	420 mg

このかぜ薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a d-クロルフェニラミンマレイン酸塩は、抗ヒスタミン作用によってくしゃみや鼻汁を抑える成分である。
- b デキストロメトルファン臭化水素酸塩水和物は、咳を抑える成分である。
- c トラネキサム酸には、凝固した血液を溶解されにくくする作用もある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	誤	正

【問 6 3】 解熱鎮痛薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 腹痛を含む痙攣性^{けいれん}の内臓痛に対し、一部の漢方処方製剤を除き、解熱鎮痛薬の効果は期待できない。
- b 解熱鎮痛薬は、発熱や痛みの原因となっている病気や外傷を根本的に治すものである。
- c 一般用医薬品の解熱鎮痛薬は、複数の有効成分が配合されている製品が多く、他の解熱鎮痛薬やかぜ薬等が併用されると、同じ成分又は同種の作用を持つ成分が重複して、効き目が強く現れすぎたり、副作用が起こりやすくなったりするおそれがある。
- d 解熱鎮痛薬は、頭痛に対し、症状が軽いうちに服用すると効果的であるので、予防として発症する前から積極的に使用するべきである。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	誤	正	誤
3	誤	正	正	正
4	誤	正	誤	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 6 4】 解熱鎮痛薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アセトアミノフェンの作用には、解熱及び鎮痛をもたらす末梢作用と、抗炎症をもたらす中枢作用がある。
- b イソプロピルアンチピリンは、解熱及び鎮痛の作用は比較的強いが、抗炎症作用は弱いいため、他の解熱鎮痛成分と組み合わせて配合される。
- c イブプロフェンは、プロスタグランジンの産生を抑制することで消化管粘膜の防御機能を低下させるため、潰瘍性大腸炎やクローン氏病の既往歴がある人では、それらの疾患の再発を招くおそれがある。

	a	b	c
1	正	誤	正
2	正	正	誤
3	誤	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	正	正

【問 6 5】 眠気を促す薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 抗ヒスタミン成分を主薬とする催眠鎮静薬は、慢性的に続く睡眠障害の緩和に適している。
- b プロモバレル尿素を含有する催眠鎮静薬は、胎児に障害を引き起こす可能性がないため、妊婦の睡眠障害の緩和に適している。
- c 抑肝散は体力中等度をめやすとして、神経がたかぶり、怒りやすい、イライラなどがあるものの神経症、不眠症、小児夜なき、小児疝症、歯ぎしり、更年期障害、血の道症に適すとされる。
- d 神経の興奮・緊張緩和を期待して配合される生薬成分のサンソウニン^{かん}は、クロウメモドキ科のサネブトナツメの種子を基原とする。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	誤	誤	正	正

【問 6 6】 カフェインに関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 脳に軽い興奮状態を引き起こし、一時的に眠気や倦怠感を抑える効果がある。
- 2 作用は弱いながら、反復摂取により依存を形成する。
- 3 腎臓におけるナトリウムイオン（同時に水分）の再吸収促進作用があり、尿量の減少をもたらす。
- 4 胃液分泌亢進作用があり、その結果、副作用として胃腸障害（食欲不振、悪心・嘔吐）が現れることがある。

【問 6 7】 鎮暈薬（乗物酔い防止薬）に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 眠気を促す作用があるため、乗物の運転操作をするときは、抗コリン成分を含む乗物酔い防止薬の使用を控える必要がある。
- b ジフェンドール塩酸塩は、抗ヒスタミン成分と共通する類似の薬理作用を示し、海外では制吐薬やめまいの治療薬として使われてきた。
- c 抗コリン成分の主な副作用として、縮瞳がある。
- d スコポラミン臭化水素酸塩は、抗ヒスタミン成分と比べて作用時間が長い。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問68】 小児の瘡^{かん}を適応症とする生薬製剤・漢方処方製剤（小児鎮静薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 小児の瘡^{かん}は、乾^{かん}という意味もあるとも言われ、瘦^やせて血が少ないことから生じると考えられており、鎮静作用のほか、血液の循環を促す作用があるとされる生薬成分を中心に配合されている。
- b 柴胡加竜骨牡蛎湯^{さいこかりゅうこつぼれいとう}を小児の夜泣きに用いる場合、1週間位服用しても症状の改善がみられないときには、いったん服用を中止して、専門家に相談する等の対応が必要である。
- c ゴオウは、ジンチョウゲ科のジンコウ、その他同属植物の材、特にその辺材の材質中に黒色の樹脂が沈着した部分を採取したものを基原とする生薬で、鎮静、健胃、強壮などの作用を期待して用いられる。
- d 小建中湯^{しょうけんちゅうとう}は、体力虚弱で疲労しやすく腹痛があり、血色がすぐれず、ときに動悸^き、手足のほてり、冷え、ねあせ、鼻血、頻尿及び多尿などを伴うものの小児虚弱体質^{けん}、疲労倦怠、慢性胃腸炎、腹痛、神経質、小児夜尿症、夜なきに適すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	正	正
4	誤	正	正	誤
5	正	誤	誤	正

【問69】 鎮咳去痰薬^{がいたん}に含まれる成分に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a コデインリン酸塩は、妊娠中に摂取された場合、吸収された成分の一部が血液-胎盤関門を通過して胎児へ移行することが知られている。
- b ジヒドロコデインリン酸塩には、胃腸の運動を低下させる作用があり、副作用として便秘が現れることがある。
- c メチルエフェドリン塩酸塩^{せきぜん}は、副交感神経系を刺激して気管支を拡張させる作用を示し、呼吸を楽にして咳や喘息の症状を鎮めることを目的として用いられる。
- d マオウの中樞神経系に対する作用は、同じ気管支拡張成分であるメトキシフェナミン塩酸塩に比べ弱く、依存性の心配はない。

- 1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問70】 循環器用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 日本薬局方収載のコウカを煎じて服用する製品は、高血圧等における毛細血管の補強、強化の効果を期待して用いられる。
- b ユビデカレノン^{ユビデカレノン}は、肝臓や心臓などの臓器に多く存在し、エネルギー代謝に関与する酵素の働きを助ける成分で、摂取された栄養素からエネルギーが産生される際にビタミンB群とともに働く。
- c ルチンは、ニコチン酸が遊離し、そのニコチン酸の働きによって末梢の血液循環を改善する作用を示すとされる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	誤	誤	正

【問71】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 含嗽薬^{含嗽薬}の使用後すぐに食事を摂ると、殺菌消毒効果が薄れやすい。
- b トローチ剤やドロップ剤は、有効成分が口腔内や咽頭部^{咽頭部}に行き渡るよう、噛み砕いてから飲み込んで使用する。
- c 炎症を生じた粘膜組織の修復を促す作用を期待して、クロルヘキシジン塩酸塩が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	誤	誤
3	誤	正	誤
4	正	正	正

【問 7 2】 強心薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 1 日用量中センソ 5 mg を超えて含有する医薬品は劇薬に指定されている。
- b キキョウやボタンピは、心筋に直接刺激を与え、その収縮力を高める作用（強心作用）を期待して用いられる。
- c ロクジョウは、ヒキガエル科のシナヒキガエル等の毒腺の分泌物を集めたものを基原とする生薬で、微量で強い強心作用を示す。
- d ジャコウは、シカ科のジャコウジカの雄の麝香腺分泌物を基原とする生薬で、強心作用のほか、呼吸中枢を刺激して呼吸機能を高めたり、意識をはっきりさせる等の作用があるとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	正	正	誤	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

【問 7 3】 口腔咽喉薬及びうがい薬（含嗽薬）に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 噴射式の液剤では、息を吸いながら噴射すると気管支や肺に入ってしまうおそれがあるため、軽く息を吐いたり、声を出しながら噴射することが望ましい。
- b 口腔咽喉薬は、口腔内や咽頭における局所的な作用を目的とする医薬品であるため、全身的な影響はない。
- c トラネキサム酸は、声がれ、喉の荒れ、喉の不快感、喉の痛み又は喉の腫れの症状を鎮める目的として用いられる。
- d ヨウ素系殺菌消毒成分が配合されたものでは、まれにショック（アナフィラキシー）、アナフィラキシー様症状のような全身性の重篤な副作用を生じることがある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	正	正	誤	正
3	誤	誤	誤	正
4	誤	誤	正	誤
5	正	誤	正	正

【問74】 血中コレステロール及び高コレステロール改善薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 高コレステロール改善薬は、血中コレステロール異常の改善、血中コレステロール異常に伴う末梢血行障害（手足の冷え、痺れ）の緩和等^{しび}を目的として使用される医薬品である。
- b コレステロールの産生及び代謝は、主として腎臓で行われる。
- c リポタンパク質は比重によっていくつかの種類に分類されるが、そのうち高密度リポタンパク質（HDL）は、コレステロールを腎臓から末梢組織へ運ぶリポタンパク質である。
- d 医療機関で測定する検査値として、HDLが140 mg/dL以上、低密度リポタンパク質（LDL）が40 mg/dL未満、中性脂肪が150 mg/dL以上のいずれかである状態を、脂質異常症という。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	正	正	正
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	誤	誤
5	正	誤	正	誤

【問75】 貧血と貧血用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 鉄分の摂取不足が生じた場合、直ちにヘモグロビン量が減少し、貧血の症状が現れる。
- b 鉄製剤を服用すると、便が黒くなることがある。
- c 骨髄での造血機能を高める目的で、貧血用薬に硫酸コバルトが配合されている場合がある。
- d ビタミンC（アスコルビン酸等）は、消化管内で鉄が吸収されやすい状態に保つことを目的として用いられる。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	正	誤

【問 7 6】 婦人薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 女性ホルモン成分を長期連用することにより血栓症を生じるおそれがあり、また、乳癌^{がん}や脳卒中などの発生確率が高まる可能性もあるため、定期的な検診を受けるなどの対応が必要である。
- b 鎮静、鎮痛のほか、女性の滞っている月経を促す作用を期待して、サフラン、コウブシが配合されている場合がある。
- c 利尿作用を期待して、カノコソウが配合されている場合がある。
- d 胃腸症状に対する効果を期待して、オウレン、ソウジュツが配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	正	正	誤	正
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	誤
5	正	正	正	正

【問 7 7】 アレルギーの症状及び内服アレルギー用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アレルゲンが皮膚や粘膜から体内に入り込むと、その物質を特異的に認識したヒスタミンによって、肥満細胞が刺激され、細胞間の刺激の伝達を担う生理活性物質である免疫グロブリンが遊離する。
- b ジフェンヒドラミン塩酸塩は、ヒスタミンの働きを抑える作用により、蕁麻疹^{じん しん}や鼻炎等に用いられる。
- c 皮膚や鼻粘膜の炎症を和らげることを目的として、グリチルリチン酸が配合されている場合がある。

	a	b	c
1	誤	誤	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	正	正	正

【問 7 8】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以上で口渇があり、尿量少なく、便秘するものの蕁麻疹^{じん しん}、口内炎、皮膚の痒み^{かゆ}に適すとされるが、体の虚弱な人（体力の衰えている人、体の弱い人）、胃腸が弱く下痢しやすい人では、激しい腹痛を伴う下痢等の副作用が現れやすい等、不向きとされる。

- 1 茵陳蒿湯^{いんちんこうとう}
- 2 十味敗毒湯^{じゅうみはいどくとう}
- 3 消風散^{しょうふうさん}
- 4 当帰飲子^{とうきいんし}
- 5 荊芥連翹湯^{けいがいれんぎょうとう}

【問 7 9】 鼻に用いる薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アドレナリン作動成分が配合された点鼻薬を過度に使用すると、鼻粘膜の血管が反応しなくなり、逆に血管が拡張して二次充血を招き、鼻づまり（鼻閉）がひどくなりやすい。
- b くしゃみや鼻汁等の症状の緩和を目的として、ケトチフェン等の抗ヒスタミン成分が配合されている場合がある。
- c クロモグリク酸ナトリウムは、アレルギー性でない鼻炎や副鼻腔炎^{くわう}に対しても有効である。
- d 鼻粘膜の過敏性や痛みや痒み^{かゆ}を抑えることを目的として、リドカイン、リドカイン塩酸塩等の局所麻酔成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	誤	正	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	誤	正	誤
4	正	正	正	正
5	正	正	誤	正

【問 8 0】 一般用検査薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 検査に用いる検体は、尿、糞便、鼻汁、唾液、涙液など採取に際して侵襲（採血や穿刺等）のないものである。
- b 検体中に存在しているにもかかわらず、その濃度が検出感度以下であったり、検出反応を妨害する他の物質の影響等によって、検査結果が陰性となった場合を擬陰性という。
- c 尿糖・尿タンパク検査薬の結果により、直ちに疾患の有無や種類を判断することができる。
- d 一般的な妊娠検査薬は、月経予定日が過ぎて概ね 1 週目以降の検査が推奨されている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	正

【問 8 1】 次の表は、ある胃腸鎮痛鎮痙薬に含まれている成分の一覧である。

1 包（1 g）中	
ジサイクロミン塩酸塩	5 mg
乾燥水酸化アルミニウムゲル	400 mg
酸化マグネシウム	200 mg

この胃腸鎮痛鎮痙薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ジサイクロミン塩酸塩は、副交感神経の伝達物質であるアセチルコリンと受容体の反応を妨げることで、胃痛、腹痛を鎮める。
- b 乾燥水酸化アルミニウムゲルは、消化管内容物中に発生した気泡の分離を促すことを目的として配合されている。
- c 酸化マグネシウムは中和反応によって胃酸の働きを弱めることを目的として配合されている。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	誤	正	正
4	誤	正	誤

【問 8 2】 次の表は、ある制酸薬に含まれている成分の一覧である。

1 包 (1.3 g) 中	
炭酸水素ナトリウム	200 mg
ケイ酸アルミン酸マグネシウム	300 mg
ロートエキス 3 倍散	30 mg
	(ロートエキスとして 10 mg)
ソファルコン	100 mg

この制酸薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 腎臓病の診断を受けた人では、ナトリウム、マグネシウム等の無機塩類の排泄^{せつ}が遅れたり、体内に貯留しやすくなるため、使用する前にその適否につき、治療を行っている医師等に相談すべきである。
- b ロートエキスは、吸収された成分の一部が母乳中に移行して乳児の脈が遅くなるおそれがある。
- c ソファルコンは、まれに重篤な副作用として肝機能障害を生じることがある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	正	誤	正
4	正	誤	誤
5	誤	正	誤

【問 8 3】 次の表は、ある瀉下薬に含まれている成分の一覧である。

3包 (6 g) 中		
プラントゴ・オバタ種皮		2,100 mg
センノシド (センノシドA・Bとして 36 mg)		55.4 mg
ジオクチルソジウムスルホサクシネート (D S S)		100 mg

この瀉下薬に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a プラントゴ・オバタ種皮は、主成分である麦芽糖が腸内細菌によって分解（発酵）して生じるガスによって便通を促すとされている。
- b センノシドは、小腸でリパーゼの働きによって生じる分解物が、小腸を刺激することで瀉下作用をもたらすと考えられている。
- c ジオクチルソジウムスルホサクシネート (D S S) には、腸内容物に水分が浸透しやすくする作用があり、糞便中の水分量を増して柔らかくすることによる瀉下作用を期待して用いられる。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	正	誤
3	正	誤	誤
4	誤	正	正
5	誤	誤	正

【問 8 4】 止瀉薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 次没食子酸ビスマスは、腸粘膜のタンパク質と結合して不溶性の膜を形成し、腸粘膜をひきしめる（収斂）ことにより、腸粘膜を保護することを目的として用いられる。
- b ロペラミド塩酸塩は、食あたりや水あたりによる下痢については適用対象でない。
- c 木クレオソートは、腸管内の異常発酵等によって生じた有害な物質を吸着させることを目的として用いられる。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	誤	正
3	誤	正	誤
4	正	正	誤
5	誤	誤	正

【問 8 5】 胃腸鎮痛鎮痙薬けいに含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アミノ安息香酸エチルは、メトヘモグロビン血症を起こすおそれがあるため、6歳未満の小児への使用は避ける必要がある。
- b 抗コリン成分であるパパベリン塩酸塩は、副作用として、自律神経系を介して眼圧を上昇させる作用を示す。
- c オキシセサゼインけいは、局所麻酔作用のほか、胃液分泌を抑える作用もあるとされ、胃腸鎮痛鎮痙薬と制酸薬の両方の目的で使用される。

	a	b	c
1	正	正	正
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	正

【問 8 6】 浣腸薬かん（注入剤）及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 注入する薬液は十分冷やしておくこと、不快感を生じることが少ない。
- b 半量を使用するような場合、残量を再利用すると感染のおそれがあるので使用後は廃棄する。
- c グリセリンは、直腸内で徐々に分解して炭酸ガスの微細な気泡を発生することで直腸を刺激する作用を期待して用いられる。
- d 薬液を注入した後すぐに排便を試みると、薬液のみが排出されて効果が十分得られないことから、便意が強まるまでしばらく我慢する。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	誤	誤	正	正
5	誤	誤	誤	誤

【問 8 7】 駆虫薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 駆虫薬は腸管内に生息する虫体にのみ作用し、虫卵には駆虫作用は及ばない。
- b 複数の駆虫薬を併用することで駆虫効果が高まる。
- c ピペラジンリン酸塩は、アセチルコリン伝達を妨げて回虫及び^{ぎょう}蟯虫の運動筋を麻痺^ひさせる作用を示し、虫体を排便とともに排出させることを目的として用いられる。
- d パモ酸ピルビニウムは^{ぎょう}蟯虫の呼吸や栄養分の代謝を抑えて殺虫作用を示すとされる。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	正	正
3	誤	誤	正	誤
4	誤	正	誤	正
5	誤	正	誤	誤

【問 8 8】 外用痔疾用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 外用痔疾用薬は局所に適用されるものであるが、坐剤及び注入軟膏^{こう}では、成分の一部が直腸粘膜から吸収されて循環血流中に入りやすく、全身的な影響を生じることがある。
- b 痔による肛門部の創傷の治癒を促す効果を期待して、デカリニウム塩化物のような組織修復成分が用いられる。
- c 粘膜表面に不溶性の膜を形成することによる、粘膜の保護・止血を目的として、タンニン酸が配合されている場合がある。
- d 痔疾患に伴う局所の感染を防止することを目的として、アラントインのような殺菌消毒成分が配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	正	正	正	正

【問 8 9】 内用痔疾用薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ^{こう} 肛門周囲の末梢血管の血行を促して、鬱血を改善する効果を期待して、ビタミンDが配合されている場合がある。
- b カルバゾクロムは、毛細血管を補強、強化して出血を抑える働きがあるとされている。
- c ^{おつじとう} 乙字湯、^{きゅうききょうがいとう} 芎帰膠艾湯のいずれも、構成生薬としてカンゾウを含む。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	誤
4	正	正	誤

【問 9 0】 眼科用薬に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか。

- 1 点眼の際に容器の先端が眼瞼（まぶた）や睫毛（まつげ）に触れると、雑菌が薬液に混入して汚染を生じる原因となるため、触れないように注意しながら点眼する。
- 2 一度に何滴も点眼しても効果が増すわけではなく、むしろ鼻粘膜や喉から吸収されて、副作用を起しやすくなる。
- 3 点眼後は、数秒間、眼瞼（まぶた）を閉じて薬液を結膜囊内（のう）に行き渡らせるが、その際、目頭は押さえない方が効果的とされる。
- 4 一般用医薬品の点眼薬には、緑内障の症状を改善できるものはなく、配合されている成分によっては、緑内障の悪化につながるおそれがある。
- 5 コンタクトレンズをしたままでの点眼は、ソフトコンタクトレンズ、ハードコンタクトレンズに関わらず、添付文書に使用可能と記載されてない限り行うべきでない。

【問 9 1】 点眼薬に含まれる次の成分のうち、自律神経系の伝達物質の産生に重要な成分であり、目の調節機能の回復を促す効果を期待して含まれるものはどれか。

- 1 イプシロン-アミノカプロン酸
- 2 ヒドロキシプロピルメチルセルロース
- 3 スルファメトキサゾール
- 4 パントテン酸カルシウム

【問92】 皮膚に用いる薬に含まれる次の抗炎症成分のうち、非ステロイド性抗炎症成分（NSAIDs）であるものの正しい組合せはどれか。

- a デキサメタゾン
- b ジクロフェナクナトリウム
- c プレドニゾン吉草酸エステル酢酸エステル
- d ピロキシカム
- e ヒドロコルチゾン

1 (a、b) 2 (a、c) 3 (b、d) 4 (c、e) 5 (d、e)

【問93】 抗真菌薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 一般的に、じゅくじゅくと湿潤している患部には、軟膏又はクリームが適すとされる。
- b ぜにたむしやいんきんたむしで患部が広範囲に及ぶ場合は、自己治療の範囲を超えており、内服抗真菌薬による全身的な治療が必要な場合もあるので、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- c ウンデシレン酸は、患部を酸性にすることで、皮膚糸状菌の発育を抑える。
- d テルビナフィン塩酸塩は、皮膚糸状菌の細胞膜を構成する成分の産生を妨げることにより、その増殖を抑える。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	正	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	正	誤	正
5	正	正	誤	正

【問94】 口内炎と口内炎用薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 口内炎は、疱疹ウイルスの口腔内感染、医薬品の副作用として生じる場合もある。
- b 口内炎は、通常であれば1～2週間で自然寛解するが、一度に複数箇所に発生して食事に著しい支障を来すほどの状態であれば、医療機関を受診するなどの対応が必要である。
- c 口腔粘膜の組織修復を促す作用を期待して、アクリノールが配合されている場合がある。

	a	b	c
1	正	正	正
2	誤	正	正
3	誤	誤	正
4	正	正	誤
5	正	誤	誤

【問 9 5】 禁煙補助剤及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 咀嚼剤は、菓子^{そしやく}のガムのように噛む^かことで、唾液を多く分泌させながら使用することが望ましい。
- b 咀嚼剤は、口腔内^{そしやく}が酸性になるとニコチンの吸収が増加するため、コーヒーや炭酸飲料など口腔内^{くわう}を酸性にする食品を摂取した後、しばらくは使用を避けることとされている。
- c ニコチンは、交感神経系を興奮させる作用を示す。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	誤	正	誤
4	正	誤	正
5	誤	誤	正

【問 9 6】 滋養強壯保健薬に含まれる成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a ガンマー-オリザノールは、腸管でのカルシウム吸収及び尿細管でのカルシウム再吸収を促して、骨の形成を助ける栄養素である。
- b アスパラギン酸ナトリウムは、骨格筋の疲労の原因となる乳酸の分解を促す等の働きを期待して用いられる。
- c システインは、肝臓においてアルコールを分解する酵素の働きを助け、アセトアルデヒドと直接反応して代謝を促す働きがあるとされる。
- d グルクロノラクトンは、肝臓の働きを助け、肝血流を促進する働きがあり、全身倦怠感^{けん}や疲労時の栄養補給を目的として配合されている場合がある。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問97】 漢方処方製剤に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 防已ぼうい黄耆おうぎ湯は、体力中等度以下で、疲れやすく、汗のかきやすい傾向があるものの肥満に伴う関節痛、むくみ、多汗症、肥満（筋肉にしまりのない、いわゆる水ぶとり）に適すとされる。
- b 漢方独自の病態認識である「証」に基づいて用いることが、有効性及び安全性を確保するために重要である。
- c 用法用量において適用年齢の下限が設けられていない場合であっても、生後3ヶ月未満の乳児には使用しないこととされている。
- d 大柴胡ださいこ湯は、構成生薬としてダイオウを含む。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	正	誤	誤
3	誤	正	正	正
4	正	誤	誤	正
5	正	正	正	正

【問98】 次の記述にあてはまる漢方処方製剤として、最も適切なものはどれか。

体力中等度以下で腹部筋肉が弛緩しする傾向にあり、胃痛又は腹痛があつて、ときに胸やけや、げっぷ、食欲不振、吐きけなどを伴うものの神経性胃炎、慢性胃炎、胃腸虚弱に適するとされる。

- 1 安中あんちゆう散
- 2 六君子りっくん湯
- 3 平胃へいい散
- 4 大黃甘草だいはうかんぞう湯

【問 9 9】 消毒薬及びその成分に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a クレゾール石鹼液は、一般細菌類、真菌類及びウイルスに対して殺菌消毒作用を示す。
- b サラシ粉は、一般細菌類に対して殺菌消毒作用を示し、専ら人体の消毒に用いられる。
- c 消毒薬を誤って飲み込んだ場合、一般的な家庭における応急処置として、通常は多量の牛乳などを飲ませるが、手元に何も無いときはまず水を飲ませる。
- d 消毒薬が誤って目に入った場合の応急処置として、まずは、酸であればアルカリで、アルカリであれば酸で中和することが適切である。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	誤	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	誤
4	正	誤	誤	正
5	正	正	誤	誤

【問 1 0 0】 殺虫剤・忌避剤及び衛生害虫に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺虫剤・忌避剤は人体に対する作用が緩和なため、医薬品として扱われることはなく、すべて医薬部外品として扱われる。
- b ハエ蛆症とは、人の体内や皮膚などに幼虫（ウジ）が潜り込み、組織や体液や消化器官内の消化物を食べて直接的な健康被害を与える症状のことである。
- c シラミの防除には、殺虫成分としてフェノトリンが配合されたシャンプーやてんか粉が用いられる。
- d ツメダニ類等の屋内塵性ダニに対して殺虫剤を散布する場合は、エアゾール、粉剤の使用は避け、水で希釈する薬剤を用いることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	誤	正	正
4	誤	正	誤	正

医薬品の適正使用と安全対策（20問）

【問101】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述のうち、正しいものの組合せはどれか。

- a 開封時に一度目を通せば十分である。
- b 各製品に応じたリスク区分は記載されていない。
- c 重要な内容が変更された場合、改訂年月が記載されるとともに改訂された箇所が明示されている。
- d 医薬品を使用する人に、その製品の概要を分かりやすく説明することを目的として、製品の特徴が記載されている。

1 (a、b) 2 (a、d) 3 (b、c) 4 (c、d)

【問102】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 重篤な副作用として皮膚粘膜眼症候群が掲げられている医薬品では、この医薬品の成分によるアレルギーの既往歴がある人等は使用しないこととして記載されている。
- b 医師の治療を受けている場合、要指導医薬品を使用するときは治療を行っている医師に相談することが必要であるが、一般用医薬品を使用するときであれば自己判断で使用し、医師に相談しなくてよい。
- c 漢方処方製剤では、継続して使用されることにより効果が得られるとされているものが多いが、長期に使用される漢方処方製剤を長期連用する場合には、専門家に相談する旨が記載されている。

	a	b	c
1	正	誤	誤
2	正	正	正
3	正	誤	正
4	誤	正	誤
5	誤	正	正

【問103】 一般用医薬品の添付文書の使用上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 「相談すること」の項の副作用に関する記述において、まず、まれに発生する重篤な副作用について記載され、そのあとに続けて、一般的な副作用について記載されている。
- b 一般的な副作用として記載されている症状であっても、重篤な副作用の初期症状である可能性があるものも含まれている。
- c 一般用医薬品を使用した際に生じる軽微な症状のうち容認されるものは、記載されない。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	誤	誤
3	誤	正	正
4	正	誤	正
5	誤	正	誤

【問104】 一般用医薬品の添付文書に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 消費者相談窓口として、製造販売業者に許可を与えた都道府県の許可担当部門の名称、電話番号が記載されている。
- b 有効成分が不明な場合は、成分及び分量の項目については記載されていない。
- c 医薬品の使用のみに頼ることなく、日常生活上、どのようなことに心がけるべきかなどについて、記載されていることがある。

	a	b	c
1	誤	誤	誤
2	正	誤	正
3	正	正	誤
4	誤	誤	正
5	誤	正	誤

【問105】 一般用医薬品の保管及び取扱い上の注意に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a カプセル剤は、冷蔵庫内から取り出したときに湿気を帯びるおそれはなく、冷蔵庫内での保管が適当である。
- b すぐに使用できるよう、小児用解熱鎮痛薬を小児の枕元に保管することは適当である。
- c 医薬品を別の容器へ移し替えると、誤用の原因となるおそれがある。
- d 点眼薬は、長期間の保存に適さないので、家族で共用し、できる限り早期に使い切ることが望ましい。

	a	b	c	d
1	正	正	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	誤	正	誤	正
4	正	誤	正	正

【問106】 医薬品等に係る安全性情報に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 緊急安全性情報は、医薬品、医療機器又は再生医療等製品について緊急かつ重大な注意喚起や使用制限に係る対策が必要な状況にある場合に、作成される。
- b 安全性速報は、A4サイズの黄色地の印刷物で、イエローレターとも呼ばれる。
- c 厚生労働省は、医薬品、医療機器等による重要な副作用、不具合等に関する情報をとりまとめて、「医薬品・医療機器等安全性情報」として、医薬関係者向けに情報提供を行っている。
- d 厚生労働省は、医薬品・医療機器の安全性に関する特に重要な情報を電子メールにより配信する医薬品医療機器情報配信サービスを行っている。

	a	b	c	d
1	誤	正	誤	誤
2	正	誤	誤	正
3	正	正	正	誤
4	誤	正	正	正
5	正	誤	正	誤

【問107】 次のうち、(独)医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されている情報の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医療機関等から報告された、医薬品による副作用が疑われる症例情報
- b 患者向医薬品ガイド
- c 医薬品・医療機器等安全性情報
- d 医薬品の承認情報

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	正	正	正
3	正	誤	正	正
4	正	正	誤	正
5	正	正	正	誤

【問108】 副作用情報等の収集に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 製造販売業者は、その製造販売をした医薬品について、その使用によるものと疑われる感染症の発生等を知ったときは、その旨を定められた期限までに厚生労働大臣（情報の整理を(独)医薬品医療機器総合機構に行わせることとした場合は、(独)医薬品医療機器総合機構）に報告しなければならない。
- b 血液製剤等の生物由来製品を製造販売する企業は、当該企業が製造販売する生物由来製品の安全性について評価し、その成果を定期的に都道府県知事へ報告しなければならない。
- c 医療用医薬品で使用されていた有効成分を一般用医薬品で初めて配合したものは、承認条件として承認後の一定期間の安全性に関する調査及び調査結果の報告は求められていない。
- d 医薬品の販売業者は、製造販売業者が行う副作用等の情報収集に協力するよう努めなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	誤	正
2	正	誤	正	誤
3	正	誤	誤	正
4	誤	正	正	正
5	誤	正	誤	誤

【問 1 0 9】 副作用情報等の評価及び措置に関する次の記述について、() の中に入れるべき字句の正しい組合せはどれか。

医薬品・医療機器等安全性情報報告制度等により集められた副作用情報については、(a) において専門委員の意見を聴きながら調査検討が行われ、その結果に基づき、(b) は、(c) の意見を聴いて、使用上の注意の改訂の指示等を通じた注意喚起のための情報提供や、効能・効果や用法・用量の一部変更、調査・実験の実施の指示、製造・販売の中止、製品の回収等の安全対策上必要な行政措置を講じている。

	a	b	c
1	(独) 医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	製造販売業者
2	日本製薬団体連合会	厚生労働大臣	製造販売業者
3	(独) 医薬品医療機器総合機構	都道府県知事	薬事・食品衛生審議会
4	日本製薬団体連合会	都道府県知事	製造販売業者
5	(独) 医薬品医療機器総合機構	厚生労働大臣	薬事・食品衛生審議会

【問 1 1 0】 医薬品による副作用等が疑われる場合の報告に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品との因果関係が明確でない場合は、報告の対象とならない。
- b 医薬品の誤用によるものと思われる健康被害は、報告の対象とならない。
- c 報告様式は、(独) 医薬品医療機器総合機構のホームページから入手できる。
- d 医薬品の販売等に従事する専門家は、報告の必要性を認めた日から起算して、15 日以内に報告しなければならない。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	誤	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 1 1 1】 医薬品副作用被害救済制度に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 医薬品の適正使用の有無にかかわらず、副作用によって一定程度以上の健康被害が生じた場合に、医療費等の諸給付を行うものである。
- b 健康被害を受けた本人又は家族が給付請求できる。
- c 医療手当の請求は期限がない。
- d 一般用医薬品の使用による副作用被害への救済給付の請求に当たっては、医師の診断書を添付すれば、その医薬品を販売等した薬局開設者、医薬品の販売業者の作成した販売証明書を添付しなくてよい。

	a	b	c	d
1	誤	誤	誤	正
2	誤	正	誤	誤
3	正	正	誤	誤
4	正	正	正	正
5	正	誤	正	誤

【問 1 1 2】 医薬品PLセンターに関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a (独) 医薬品医療機器総合機構により、製造物責任法の施行と同時に開設された。
- b 医薬品及び医療機器に関する苦情を受け付けている。
- c 医薬品副作用被害救済制度の対象とならないケースのうち、製品不良など、製薬企業に損害賠償責任がある場合には、医薬品PLセンターへの相談が推奨される。
- d 苦情を申し立てた消費者が製造販売元の企業と交渉するに当たって、裁判による解決に導くことを目的としている。

	a	b	c	d
1	誤	正	正	正
2	正	誤	誤	正
3	正	誤	正	誤
4	誤	誤	正	誤
5	正	正	誤	誤

【問 1 1 3】 医薬品副作用被害救済制度の対象となる次の一般用医薬品の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 殺菌消毒剤（人体に直接使用しないもの）
- b 漢方処方製剤
- c 禁煙補助剤
- d 日本薬局方収載の白色ワセリン

	a	b	c	d
1	誤	正	正	誤
2	誤	誤	正	誤
3	正	誤	誤	誤
4	正	誤	正	正
5	誤	正	誤	正

【問 1 1 4】 一般用医薬品に関する主な安全対策に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a アンプル入りかぜ薬の使用による重篤な副作用（ショック）で死亡例が発生したことを踏まえ、厚生省（当時）は関係製薬企業に対し、アンプル入りかぜ薬製品の回収を要請した。
- b 慢性肝炎患者が小柴胡湯しょうさいこうとうを使用してライ症候群が発症し、死亡を含む重篤な転帰に至った例もあったことから、厚生省（当時）は関係製薬企業に対して緊急安全性情報の配布を指示した。
- c 2003年5月までに、一般用かぜ薬の使用によると疑われる出血性脳卒中の発生事例が、計26例報告され、厚生労働省は、一般用かぜ薬全般につき使用上の注意の改訂を指示した。
- d 塩酸フェニルプロパノールアミンが配合された一般用医薬品による偽アルドステロン症の副作用症例が複数報告され、厚生労働省は、代替成分としてプソイドエフェドリン塩酸塩等への速やかな切替えにつき指示した。

	a	b	c	d
1	正	正	正	正
2	正	誤	誤	誤
3	誤	誤	正	正
4	正	誤	正	誤
5	誤	正	誤	誤

【問 1 1 5】 医薬品の適正使用のための啓発活動に関する次の記述の正誤について、正しい組合せはどれか。

- a 保健衛生の維持向上に貢献することを目的とし、毎年 10 月 17 日からの 1 週間を、「薬と健康の週間」として、広報活動やイベント等が実施されている。
- b 薬物乱用防止を一層推進するため、毎年 6 月 20 日からの 1 ヶ月間、「ダメ。ゼッタイ。」普及運動が実施されている。
- c 医薬品の適正使用の重要性等に関しては、認識や理解が必ずしも十分とはいえない小中学生には積極的に啓発すべきではない。
- d 薬物乱用は、社会的な弊害は生じないが、乱用者自身の健康を害する。

	a	b	c	d
1	正	誤	正	誤
2	誤	正	正	誤
3	正	正	誤	誤
4	誤	誤	誤	正

【問 1 1 6】 次のうち、それを含有することにより一般用医薬品の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は使用（服用）しないこと」の項目欄に「出産予定日 12 週以内の妊婦」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 ブチルスコポラミン臭化物
- 2 ウルソデオキシコール酸
- 3 ピレンゼピン塩酸塩
- 4 スクラルファート
- 5 イブプロフェン

【問 1 1 7】 次の表は、ある解熱鎮痛薬に含まれている成分の一覧である。

2 包中	
アセトアミノフェン	600 mg
サザピリン	1,000 mg
アリルイソプロピルアセチル尿素	100 mg
無水カフェイン	80 mg

次のうち、この解熱鎮痛薬の添付文書の「してはいけないこと」の項において、「次の人は服用しないこと」の項目欄に記載されている事項として正しいものはどれか。

- 1 3 歳未満の小児
- 2 6 歳未満の小児
- 3 12 歳未満の小児
- 4 15 歳未満の小児

【問 1 1 8】 次の表は、ある制酸薬に含まれている成分の一覧である。

9錠中	
セトラキサート塩酸塩	600 mg
ロートエキス	30 mg
合成ヒドロタルサイト	1,200 mg
炭酸水素ナトリウム	600 mg

次のうち、この制酸薬の添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に記載されている事項として正しいものはどれか。

- 1 血栓症を起こすおそれのある人
- 2 甲状腺疾患
- 3 糖尿病
- 4 高血圧

【問 1 1 9】 次の表は、ある鎮咳去痰薬^{がい たん}に含まれている成分の一覧である。

3錠中	
ジプロフィリン	225 mg
d l -メチルエフェドリン塩酸塩	18.75 mg
ノスカピン	30 mg
ジフェンヒドラミン塩酸塩	45 mg

次のうち、この鎮咳去痰薬^{がい たん}の添付文書の「相談すること」の項において、「次の診断を受けた人」の項目欄に記載されている事項として正しいものはどれか。

- 1 胃・十二指腸潰瘍
- 2 血液凝固異常
- 3 てんかん
- 4 肝臓病

【問 1 2 0】 次のうち、それを含有することにより一般用医薬品の添付文書の「相談すること」の項において、「モノアミン酸化酵素阻害剤（セレギリン塩酸塩等）で治療を受けている人」と記載することとされている成分はどれか。

- 1 プソイドエフェドリン塩酸塩
- 2 ピコスルファートナトリウム
- 3 トリメトキノール塩酸塩
- 4 フェルビナク
- 5 アルジオキサ